

研究所だより

特別号 令和6年9月
発行：草津市立教育研究所

今号は、1学期の自己啓発講座と夏休みのスキルアップ講座、夏期研修講座、研究発表大会について掲載しています。

スキルをみがくたび

第1回草津市教職員自己啓発講座（体育）



自己啓発講座

今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる7

6月11日（火）滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子さん

子どもの笑顔と声から成り立つ体育学習をめざして

理論（言葉による説明など）だけでなく、体感しながら学べる工夫を！

〈K・T・A〉

体（からだ）を動かして！ 友（とも）だちといっしょに！ 頭（あたま）で考える！

日常の中から運動遊びを仕組む！

- 日常にあるものを使って就学前からでもできる運動遊びを。

タオルを使った運動

- タオルを使ってストレッチ
→ 身体が硬い子どもでもタオルの持ち方によっては自分に合わせた柔軟ができます。
- ペアでゲーム性を含んだストレッチ
→ ペアでコミュニケーションをとりながら、ストレッチをすることができます。小学校の高学年でも直接相手に触れるわけではないから、安心してペアで取り組みます。
- タオルを畳んで頭の上に乗せて、鬼ごっこ
→ タオルを折って頭の上に乗せるだけで、すぐく運動の制限がかかります。走るのが得意な子どもだけが活躍するのではなく、走るのが苦手な子どもチャンスが広がりますね。



このように、タオルひとつで様々な動きに合わせて運動を取り入れることができます。就学前の子どもから、中学生までそれぞれの成長段階に合わせた運動ができるといいですね。

● フラフープを使った運動

～フラフープが体育倉庫に眠っていませんか。

またはスタートラインなどの目印として使用していませんか？～

- ★ フラフープを回す。回し方は自由に。
- ★ ペアでフラフープを回す。回し方は自由に。
- ★ グループでフラフープを回している間に隣の人のフープをキャッチ。



少しの工夫で
コミュニケーションが
たくさん取れますね。

参加者の感想 満足度 ★★★★★…8名 ★★★★★☆…1名

- ・アイデア満載のとっても楽しい研修でした。早く子どもたちとやりたいです。
- ・運動遊びに苦手さを感じる子ども、身近なタオルという素材が"やってみよう"と興味をもつと感じました。全ての活動が子ども目線に立っても、"先生、そんなんでできるで！"と思えるような活動であり、その中にもバランス、スピードなどたくさん考えることがあったり身体を思い切り動かしたりなどたくさんの要素が詰まっていた。

2学期から実践できる

NEW草津型ALに基づく授業づくり《スキルアップ支援夏季講座》



7月23日（火）、教育研究所を会場にスキルアップ支援夏季講座を開催しました。

教職経験はまだ浅く、それ故の課題や悩みもお持ちだけれど、一方で若さと才気にあふれ、いよいよこれからの草津市の学校教育を中心になって担っていただく、そんなスキルアップ対象の先生方に、NEW草津型ALへの理解やICT活用にかかわる様々な試行錯誤をさらに進めていただくことを目的にした内容です。

前半の、山本和輝先生（渋川小）、青木友佳先生（老上小）お二人からの実践報告も初めての試みで、明日から活かせるヒントをたくさん教えていただきました。

後半も、同じ学年担任（小学校）や教科担任（中学校）の先生同士でグループを作り、気軽にアイデアを出し合っていたいただきながら、第2学期に行う授業の単元構想（指導案）を検討してもらいました。

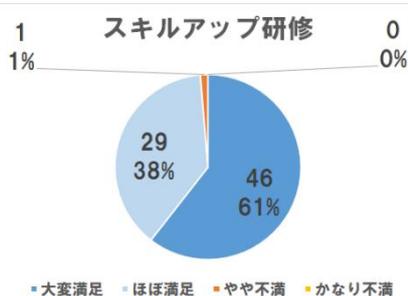
受講いただいたみなさんにとっては、近い年恰好／経験年数、同じような立場にいる他校の先生方と親しく交流していただいたことが思いのほかの成果であったのかもしれない。



第2学期には、一人ひとりの先生の研究授業を計画しています。

各学校においては、校内研究やOJTなどの取組としてできるだけ多くの先生に参観していただき、一緒に学びを深めてもらえれば…と願っています。

参加者の感想（事後アンケートより）



自分がしていないロイロノートの使い方などを、担任目線で話し合えたのがたいへん良かったです。

ICTの手段として幅広く知ることができた。少し高かったハードルが下がった気がした。

他校で同学年を担当される先生方と交流ができて良かったです。また、授業についても具体的な練り合いができ、大変勉強になりました。

草津市に来たばかりの中で、草津市のICT活用方法を新たに知ることができたのでとても勉強になりました。特にロイロノートでできる幅の広さに驚いたので学んだことを2学期に生かしたいと思います。

今まで、ロイロノートを満足に活用できていなかったため、他校の先生達との交流の中で新たな使い道を見つけてよかった。

NEW草津型ALのICT活用方法を2学期に試してみたいです。学級の子に合った学び方を見つけてよりよい学びにしていきたいと思います。

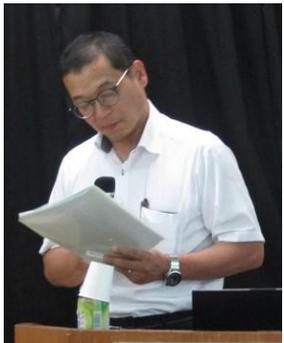
ICTの活用方法について大変勉強になりました。他の学校の先生方とも話せる貴重な機会をありがとうございました。個人的には、深い学びの一つに学ぶ方法を身につけるということを知ったことが大きな学びになりました。

夏期研修講座

今年度も、夏期研修講座を開催することができました。ありがとうございました。のべ1033名の先生方が参加してくださいました。各講座の概要と感想を掲載していますので、各自の御実践の参考にいただければと思います。

●…講座のポイント、◎…感想

講座名	【人権教育講座①】 「部落差別の解消をめざして ～生徒のアンケート結果からみえてくること～」	開催日	7/24(水)
		人数	65名
講師	全国人権・同和教育研究大会実践報告協力者 原田 朋記さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート結果から見た部落差別に対する現状。 ●部落差別に自身の立場でどのように関わっていくかが重要。 ◎人権問題や部落問題に関心・無関心ではなく、無知であることの怖さを改めて学びました。学ぶことの大切さ、重要性を明日から意識し、自分ごととして捉えていける生徒の育成に繋がるよう努めたい。 ◎部落差別の現実を意識調査や具体的事象等をもとに今を生きる私の問題として捉え、差別をなくすために必要なことを考える機会となりました。 		
講座名	【人権教育講座②】 「ダイバーシティ教育(SDGs)って何だろう?～性別違和感を乗り越えて～」	開催日	7/29(月)
		人数	53名
講師	レインボークリエイト 代表 定政 輝さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●パートナーシップ制度の取組…法的な拘束力はないが、社会的に認められる。 ●「Ally」アライ=支援者 としてできること <ul style="list-style-type: none"> ①知る ②聞く ③困っていることを一緒に考える ●誰もが「自分らしく生きる」権利があり、とても大切なことである。 ◎胸に残る言葉がたくさんありました。教員として正しい知識を生徒に伝えられるように、またもし悩んでいる生徒がいれば支えられる存在でいたいと思いました。 ◎生徒たちが社会に出る前に、「ありのままでいいんだ、無理に他の人に合わせなくていいんだ」と思えるようにさせてあげたいと思った。 		
講座名	【生徒指導講座】 「危機管理的な視点で事例を見立てる生徒指導～事例検討を通して～」	開催日	7/24(水)
		人数	74名
講師	長野総合法律事務所 弁護士 峯本 耕治さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒指導に関わる課題には、法的対応・危機管理的対応手続のシステム化、マニュアル化が必要。命に関わる事案、いじめが起因する不登校に関しては、早期のアセスメントが必要。 ●個人で抱え込まず、チーム(学校)でプランニングして、取り組むことが重要。 ◎当事者目線で事案を考えたので、自分だったらどうしようかとかなり真剣に考えることができました。 ◎一教師として自分自身の対応の振り返りや、管理職として教職員の生徒指導対応のポイントなど、多くの学びがありました。初期対応、アセスメント感覚、限界設定、保護者アセスメントなど、今後の対応に生かしていきたいと思います。 		
講座名	【生徒指導・教育相談講座①】(子ども家庭・若者課連携) 「大人が変われば子どもが変わる～子どもの気持ちを理解する～」	開催日	7/25(木)
		人数	85名
講師	こども家庭庁 参与 辻 由起子 さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもを変えていくためには、保護者(大人)を変えていくことが重要。 ●学校だけでは限界があるため、専門家を頼ることも大切である。 ●子どもの時から、「受援力」(助けてと言える力)を育むべきであり、周りに頼れる大人がいらないといけない。 ◎「受援力」のお話が特に心に残りました。この力がとても弱い子が多いので、困った時には頼ればいい、頼れたことを評価して、子どもたちにとっての安心できる場所を増やしていけたらいいなと思いました。 		

講座名	【学力向上講座①】(国語科教育) 「これからの国語授業について ～主体的な学びを支える「ロングレンジ」の学習活動～」	開催日	7/25(木)
		人数	74名
講師	京都女子大学教授 水戸部 修治 さん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●国語科の本質とは、学習指導要領・教科の目標に即し、その実現のための『言語活動』の充実を図ることである。 ●つけたい力から考えていくことで必然的な活動の姿を多様に検討し、創造していく。 ◎教材の文を学ぶことに終始していた自分が恥ずかしく、つけたい力に向けて、子どもが魅力的に感じるような言語活動を仕組んでみたいと感じました。 ◎平行教材の活用は、指導する範囲が広くなり、マイナスなイメージが大きかったですが、その概念が変わりました。子どもの関心に合わせて、適宜活用したいと思います。 	
講座名	【学力向上講座②】(英語教育) 「授業のつくり方～子どもたちと一緒に楽しむ学習活動を考える～」	開催日	8/1(木)
		人数	39名
講師	佛教大学准教授 赤沢 真世 さん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●英語を使ったコミュニケーションを図るために、必然性と自己表現を大切に、言語活動につなげていく。 ●評価に関しては、教師の主観にならないように評価者の評価の「視点」や子どもに「期待する姿」をそろえる必要がある。 ◎英語学習に大切な指導と評価の一体化、そして具体的な評価のポイントについてよく分かりました。 ◎言語活動を通して、コミュニケーションを取りたくなる必然性を意識して、今後も単元の最終ゴールを仕組んでいきたい。 	
講座名	【草津教員塾学力向上講座③】(表現・図画工作科・美術科) 「図工美術ワークショップ～かんじる・ふれる・やってみる～」	開催日	8/1(木)
		人数	129名
講師	滋賀県美術教育研究大会令和7年度草津大会実行委員会ワークショップ部会のみなさん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●4つのワークショップを通して、図工・美術の良さに気づく。 ・エコプラスを使ってあそぼう・アクリル絵の具で遊ぼう・パスの可能性を広げよう・木材を使って造形遊びをしよう ●令和7年度開催の滋賀県美術教育大会に向けたワークショップのプレ大会 ◎実際に体験することで理解できました。あっという間に時間が過ぎてもっとやりたかったです。 ◎自分の想像を膨らませる機会がなかなかないので今日は好きなようにやりたいことができてとても楽しかったです! 	
講座名	【スクールESD講座】 「持続可能な社会を創る子どもを育てるESD ～具体的な取り組みの紹介を通して～」	開催日	7/30(火)
		人数	37名
講師	東近江市立八日市南小学校 校長 北崎 裕章 さん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●ESD の学習では、子どもが自分ごととして捉えられるような仕組みを作ることが大切。自分ごととして捉えることで、「本気の学習」になる。 ●北崎先生の実践より、様々な方法について学ぶ。ワークショップを通して、実際に総合的な学習の時間について考えてみる。 ◎子どもたちが学習に主体的に取り組むためにも、教材との出会い・体験が改めて大切だと再認識しました。 ◎いかに子どもたちに自分ごととして課題をとらえさせるか、探求できるように体験活動などを取り入れていくことの大切さを学びました。 	

講座名	【ICT教育講座①】(草津市教育会共催) 「生成 AI の利活用について」	開催日	7/22(月)
		人数	62名
講師	鳴門教育大学 特命教授 藤村 裕一 さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●GIGA スクールを実現するためには、現行の授業の見直しが必要。 ●生成 AI 活用の適否に関する考え方。実際に校務として使用する場合の“適切な使用方法”と“適切ではないと思われる使用方法”を見極めていく必要がある。 ◎生成 AI について、客観的な視点で教えていただいたのがありがたかったです。生成 AI を校務で積極的に活用できるようにしていきたいです。 ◎今後教科書が紙ではなくデジタルになることで授業のあり方はずいぶん変わるのかもしれないと感じました。 		
講座名	【ICT教育講座②】(学校政策推進課共催) 「①『協働学習ソフト』 ②『AI 型デジタルドリル』を利用した授業づくり(初級・中級)」	開催日	7/30(火)
		人数	40名
講師	<ul style="list-style-type: none"> ① 株式会社 Loilo 上原浩平さん ロイロ認定インベーター 徳千代太一さん ② ラインズ株式会社文教グループ 小林由乃さん 		
	<ul style="list-style-type: none"> ●ロイロノートの特長。共有、採点と集計、情報の処理の速度など。 ●eライブラリの授業での活用方法。自動個別問題や授業支援機能など。 ●実際に校務用PCを使った実技講習。 ◎実践的な事例をたくさん教えていただいて参考になりました。 ◎eライブラリとロイロの組み合わせで学習の幅が広がることに気づくことができました。 		
講座名	【こどもまんなか社会(学校)づくり講座】(幼保小接続) 「こどもまんなか社会の実現に向けて～草津市の取り組みを踏まえて～」	開催日	7/26(金)
		人数	55名
講師	文化庁政策課 専門官 塚田 淳 さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども家庭庁は、子ども政策の司令塔として様々な課題へ機動的な対応を行う。 ●保育・学校教育に携わる者が、ライフステージの切れ目のない対応を中心として、こどもの権利を主体とし、当事者の視点を尊重していくことが、「こどもまんなか社会」へとつながっていく。 ◎政策に関しても学校においても、それが本当にこどもまんなかとなっているのかを考えていくことが必要なんだと感じました。 ◎国の方の話を直接聞けるのは非常に貴重な時間となり、こどもまんなか社会づくりの実現に向けた理念や構想も理解できました。 		

今後も、教育研究所ではニーズに合った研修を企画していきたいと思います。スキルを伸ばしたり、幅広く学んだり、御自身の教養を深めるのに、ぜひ当研究所の講座を御利用ください。お待ちしております。



研究発表大会

令和6年度 奨励論文・研究論文発表会		開催日時	8/2(金)13:00～
		参加人数	(一部)37名、(二部)33名
第一部		「伝える」から「伝わる」へ保育の可視化をめざして ～見える・わかる・つながるための取組を通して～ 老上こども園 TEAM OIKAMI 松浦 奈津樹 さん	
		地域とつながり、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動できる子どもの育成 ～子どもの学びがにつながるカリキュラムの構築～ 常盤小学校 教頭 中村 匡子 さん	
		令和2年度～5年度の研究奨励論文を通じた成果報告と教育論文執筆における要点の提案 新堂中学校 教諭 佐竹 二三也 さん	
		「スタディ・ログ」を生かして自ら学びを調整する子を育てる算数授業 ～『個別最適な学び』と『協働的な学び』という観点から学習活動を工夫して～ 志津小学校 教諭 杉本 久美香 さん	
(参加者の感想)			
◎今年度初めて論文を作成するので、発表を聞くことで見通しを持つことができました。			
◎発表して下さった先生方のおかげで、多くの学びが得られる研修になりました。分野の異なる学会発表が同時に聴けたような楽しさを感じ、刺激になりました。			
◎様々な研究の進め方があり、自分が研究を進めるときは今日聞いた中で試してみたいなと思った方法に取り組んでみようと思います。			
第二部	演題	「子どもの多様性に気づく」	
	講師	イシキ Smoothy 代表 寺岡 佑記 さん	
		(講演の概要) ●多様性は可能性 ・多様性を追い求め、定義を作りすぎてもいずれ限界がおとずれる。そうではなく、それぞれの想いに耳を傾けていくべきであり、意識すべきである。 ・多様性を大切にするためには、自分自身を大切にすることが大事。 ●動物園の引っ越しゲーム ・様々な動物たちが暮らす動物園の引っ越し先を考えるゲーム。 ・全員が住みよいのではなく、それぞれの思いを尊重することが大切。	
(参加者の感想)			
◎多様性にとらわれすぎると、不可能なこともできるので、できることから始めていこうと思う。			
◎楽しく且つ充実した学びの時間でした。多様性の実現は難しい。と気づき、今後自分がどうしていくのか、新たな課題を見つけました。			
◎全部理解できた訳ではないですが、「多様性」についての新しい考えや価値観が自分の中にできたように感じます。			

